

# VSP（ボランティアサポートプログラム）の持続的な運用に関する研究\* ～VSP参加者の態度変容から行動変容への推移～

Sustainable Management of Volunteer Program for Community Development-Volunteers' Awareness  
Improvement Toward Their Behavior Change\*

伊藤優子\*\*

By Yuko ITO\*\*

## 1. はじめに

「VSP（ボランティア・サポート・プログラム）」は、道路を慈しみ、住んでいるところをきれいにしたいという自然な気持ちを、形あるものにしようと考え出されたもので、国土交通省が推進している施策である。「みち」をきれいにしようという活動から始まっているが、地域コミュニティの活性化を図ることも目的の一つである。しかし、国道沿道の清掃・植栽を国と地域住民が継続的に維持・管理して行くうえで、人材・資材の調達など難しい問題も抱えている。

北海道開発局室蘭開発建設部室蘭道路事務所では、平成18年度よりVSPの継続的な取り組みを目指し、組織づくり、仲間づくり、持続可能な仕組みづくりを重点施策として試行した。その結果、VSP活動団体数も増え、活動も目に見えて活性化した。

本稿では、平成18年から19年年度に実施したVSP活動を通して、地域を活性化に結びつけた活動団体および関係者の態度・行動変容のプロセスを考察するものである。

## 2. VSPの取り組みについて

### (1) VSPとは

VSPの取り組みは、実施団体が、実施区域・内容を決め、事務局へ活動の希望を出すことから始まる。道路管理者(国)・協力者(自治体)との3者間で協定を結び、文書で決めた内容に基づき清掃・植樹管理を行う。

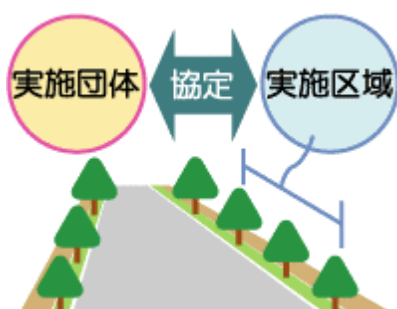


図-1 VSP実施団体と実施地域

次に、「実施団体」「道路管理者」「協力者」の3者で協定を結ぶ。さらに、具体的な清掃回数などの細かい取り決めを確認書で行う。これでVSPの取り決めは終了。「実施団体」は年に1度「道路管理者」に活動報告を行う。



図-2 VSPの三者協定

全国でボランティアサポートプログラムを実施している団体は増加しており、2007年3月で1,644団体。イオングループなど全国展開している企業も増えている。

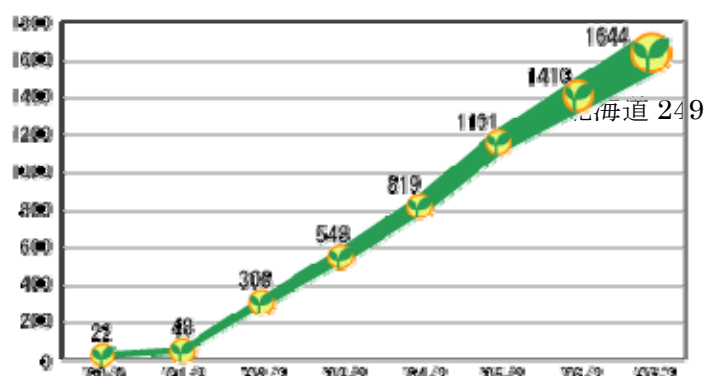


図-3 VSP実施団体数の推移

\*キーワード：市民参加、景観

\*\*正会員、社団法人 北海道開発技術センター  
(札幌市中央区南1条東2丁目11、  
TEL011-271-3028、FAX011-271-5366)

■いつ 通年  
■どこで

■だれが

## ■何を

## ■何のために

■どのような方法で

「沿道を花で飾って、地域の景観・環境整備に努めましよう。」

「地域への愛着心」が前提のVSP活動である。

### (3) VSP对象地域

国道に面する自治体は伊達市・室蘭市・登別市・白老町の3市1町である。平成18年度対象地域のVSP活動団体は白老町に2つのみである。各自治体の景観等への取り組み状況は表-1のとおりである。



図-4 国道 36 号と 37 号

| 自治体               | 自治体の施策等                                                                              | 植栽活動                                                         |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 伊達市<br>37,599 人   | 高齢者に優しいまちづくり<br>「伊達ウェルシーランド構<br>想」で道外からのＩターン<br>を積極的に呼び込んでいる。<br>温暖な気候で、花木業<br>者が多い。 | 花苗生産者が多<br>く、自宅の立体<br>花壇づくりが盛<br>ん。まちづくり<br>運動推進委員<br>会。     |
| 室蘭市<br>98,903 人   | 新日鉄などを中心とする工<br>業都市。近年、人口が著し<br>く減少している事に対し、<br>地域住民の危機感強い。                          | 室蘭市のアダプ<br>ト制度で町内会<br>を中心とする沿<br>道植栽を行う。<br>資材は市が提供<br>している。 |
| 登別市<br>53,872 人   | 登別温泉は北海道でも有数<br>の観光資源。ただし市街地<br>から離れている。景観計画<br>あり。                                  | まちづくり期成<br>会が地域づくり<br>をおこなっている。                              |
| 白 老 町<br>21,066 人 | 景観計画には関心が深い。<br>町内の植栽には町が花苗を<br>提供している。                                              | ＶＳＰ活動団体<br>２つ。北海道か<br>ら花とみどり部<br>門で表彰されて<br>いる。              |

(1) 組織づくり

平成18年Vラインを花と緑でいっぱいにするという目的で集まった有志がプロジェクトを立ち上げた。会議の最初のテーマは、「実施団体」「道路管理者」「協力者」の3者の役割分担。いずれが外れても、VSP活動は機能しないと考え、活動団体、国（道路事務所）、自治体で構成する協議会を立ち上げた。会長は活動団体より選出。

## VSP活動団体登録

協議会発足時VSPは2団体。2年間に9団体となり、参加者も町内会・学生・企業・自治体職員・花愛好会など多様。学生・企業も当日の花植え動員としてではなく、花の里親として通年活動している。また、清掃・植栽の活動は、地域の子供たちの安全を見守る活動や高齢者の地域参画にもつながっている。表-2 参照。

## ■花の里親制度(アダプトプログラム) 種から苗の育成

平成 18 年度は、参加者が確実に種から花を咲かせることに務め、花は比較的育てやすいマリーゴールドを選んだ。里親講習会は自治体ごとに開催し、各地の成長状況

を情報提供しながら、モチベーションを高めることに努めた。この取り組みがもっとも時間を費やしたプログラムであるが、もっとも効果的な取り組みであったといえる。

#### ・夏の花づくり

5月に種から植えたマリーゴールドは、7月に苗として移植して9月まで花壇を彩った。11月に花から種をとり、平成19年度夏の花壇を飾る。

#### ・春の花づくり

平成19年の春を飾る花は、パンジーとビオラ。11月に種をまき、発芽したまま雪の屋外で越冬させた。一度凍って成長が止まってしまったように見えたパンジーが雪解けとともに花をつけた。これも発芽率99.9%。

### ■講習会、講師養成講習会

平成18年度は、参加者の技術力・関心を高めるために自治体単位で小さな講習会を開催した。平成19年度は、講習会を受けた人が、講師として他の人を指導できるよ

うな講師育成を目的とした講習会を開催。その記録はDVDに編集し、講習会テキストとともに活用されている。

### ■VラインVSP見学会（バスツアー）

9つの活動団体の参加者・取り組みはさまざまである。相互評価、専門家の意見も取り入れた終日バスツアーを実施。それぞれの花壇は担当する活動団体がホストとして対応することで、もてなす気持ちを再認識する。

### ■情報提供

参加者は共通の達成イメージを持つことが肝要と考え、広報誌・ニュースレター・HP・SNS（ソーシャルネットサービス）を使い、情報提供を行う。

### ■目標の明確化と共有

平成18・19年は花を咲かせ、沿道を飾ることに留意してきた。協議会の中長期の目標は、図-5 MAPの陣地取りなど明確なイメージを共有することに重点を置く。

## 4. 活動の成果と発展方向について

表-2 VSP活動団体の活動内容と成果

|     | VSP活動団体    | 構成員                                 | 規模                                                      | 活動内容                                                                          |
|-----|------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 伊達市 | 館山花壇       | まちづくり推進委員会メンバー、フラワーマスター、伊達市職員       | 2100株                                                   | H20年「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰者                                                      |
|     | 道の駅だて歴史の杜  | 高等学校2校、企業（食品販売、造園業）、伊達市職員           | L約15M<br>約1500株<br>H20年100M延伸                           | 高校生が種から苗を育て、道の駅に植栽                                                            |
| 室蘭市 | イタンキVSP    | 32名<br>町内会、花き愛好グループ、企業（建設業）室蘭市職員    | 春600株<br>夏600株                                          | 交差点にプランターを設置。点からはじまり、沿道（線）につなげる活動を目指す。                                        |
| 登別市 | さかい町VSP    | 町内会                                 | L300m                                                   | 町内会の高齢者を屋外に連れ出す活動。<br>登下校の小学生の動きに合わせて、花壇の管理を行う。下校時防犯パトロールも実施。管理状況はNo.1.       |
|     | 咲く咲く花ロード登別 | 64名<br>企業（建設業）                      | 約2000株                                                  | 企業CRS。花苗は企業提供。関連会社に参加を呼びかけている。                                                |
|     | 銀の雫ロード     | 58名<br>まちづくり期成会、花き愛好グループ、企業（造園・建設業） | W 6.0m * L 120.0m、W 6.0m * L 56.0m<br>約2000株<br>年間活動13回 | 協議会リーダー。<br>植樹帯の範囲を超えた庭のデザイン（テーマ川・山）<br>独自の評価手法を検討中<br>・植栽コンテスト・施設見学バスツアー2回実施 |
|     | 花ひろばのぼりべつ  | 中学生、中学校PTA、おやじの会、まちづくり期成会           | 申請中                                                     | 中学校校庭と国道                                                                      |
| 白老町 | 虎杖浜フラワーロード | 40名<br>連合町内会、白老町                    | 延長580.0m<br>植樹帯160.0m                                   | 赤いカンナが注目。ここだけの取り組み<br>花苗は町が提供                                                 |
|     | ヨコストはなのみち  | 連合町内会、白老町                           | 歩道L120.0m、中央分離帯                                         | 北海道きたのまちづくり賞花と緑部門受賞、花苗は町が提供                                                   |

## （１）関係者の活動成果と発展方向

### 道路管理者／地域支援へ道路事務所所員と苗育成

業者からポットに入った苗を買うのではなく、種から自分たちで育てれば、わずかとはいえ経費の削減にもつながる。自らの気持ちや講習会における参加者の様子を見ても「愛着の度合いがまったく違う。ものを大事にしようという気持ちを新たにしたい」

プロジェクトのコンセプトは「地域の人が親しみを持てる道づくり」で、苗が果たしている役割は大きい。今後の行政の役割は「各地域毎に自立して行動できるように、行政として道筋をつけていきたい」

### 自治体／学校・緑化関係団体への呼びかけ、公共施設へ掲示、広報案内、水道提供、ゴミ処理でVSP活動をサポート

VSP活動団体から個別に持ち込まれる課題に対応してきたが、協議会で近隣の自治体の取り組みから、行政間の連携も大きなサポートになることを知った。職員も町内のVSP活動に参加するようになった。里親となって種から育てた苗には格別の愛着が沸く。たかが花と思っていたが、すっかり引き込まれてしまったようだ。

### 活動団体／

#### ① 仲間づくりを広めようプロジェクト

町内会・企業・学校などに参加を呼びかけ、VSP活動団体数を増やそう。約80KMの沿道にグリーンネックレスをかけよう。目標は、図-5のメッシュを確実に埋めて行くこと。

#### ② スキルアッププロジェクト

DVDを活用した講習会を開催し、参加者の技術力向上を図る。協議会の表彰制度を設け、ベストプラクティスを認定。

#### ③ 地域交流プロジェクト

協議会に所属する団体の現場を相互に紹介するバスツアーの開催。種・苗の交換。

#### ④ 人材育成プロジェクト

新しく参加するVSP活動団体に植栽のノウハウを伝授できる講師を協議会で育成。登録・資格制度。

#### ⑤ 運営支援プロジェクト

花の種のバンク設立。種、苗の販売で活動資金づくり、募金箱で花苗購入の資金調達、助成金の獲得。

## 企業／CSR

会社訪問者を迎えるためにはじめた国道沿道の植栽活動。それに伴い社屋まわりも清掃するようになった。社員の自主的な活動が大きいようだ。夏場の草取り・水遣りなどメンテナンスは大変だが、協議会で他の企業も頑張っていることを知ったので、それも励みとなっている。

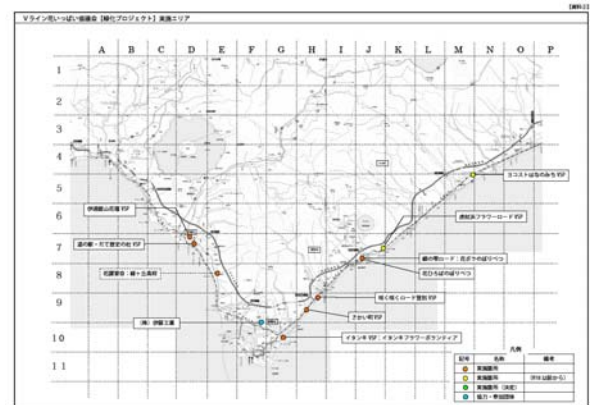


図-5 VSP活動団体で作るグリーンネックレス

## 5. おわりに

協議会のなかで、官民の協働を声だかに叫んでも、互いに「してくれない」「希望に応えてくれない」など無い物ねだりだけが露見することが多々あった。地域づくりに参加することをもう一度考えてみると、参加する＝take part は「ある特定の人が、ある特定の部署（役割）を責任を持って果たす」ということ。参加（＝分担）は1人1人の決断と行為と責任を背景に持った厳しい言葉だ。こうした参加による集団を形成することを契機にして、意識的に団体の意志やルールを作る作業を進める中で団体の意識・認識が深まっていくと考える。

いいことだとわかっていても、理念に共感できても、自らが行動するのは別の次元のこと。このVSPの取り組みを好事例として、今年より他の地域で実施することにした。実績、組織・仲間・資金、いずれをとってもこの協議会より十分な条件であっても、動けないVSP活動もある。協議会の2年間の活動は、沿道に花を咲かせただけだ。牛歩のようであったが、小さな成果を参加者自身が確かめることができ、みんなでやっているという連帯感が参加者の態度を行動に結びつけたと考える。

### 参 考

HP 国土交通省 ボランティアサポートプログラム

<http://www.mlit.go.jp/road/road/vsp/index.html>

内田義彦 社会認識の歩み（岩波新書）